

あとがき

『総合車両製作所技報』第5号をお届けいたします。

今回は当社のブランド“sustina”（SUS+Sustainable）シリーズの中から、「S13」車体長18m、扉数3扉、「S23」車体長20m、扉数3扉、および「sustina HYBRID」を特集しました。

今回で紹介した「S13」「S23」のほか、「S24」シリーズのJR東日本山手線向けE235系量産車は現在製作中で、いずれも車両構体や車体設備、アコモデーション、車両電機品等の共通プラットフォーム化を図り、共通設計、部品の標準化、作り易い車両構造等で品質向上・安定化、コストダウン、工程短縮等を目指しています。

また、「sustina HYBRID」は2016年9月20～23日、ドイツ・ベルリンで開催されたInnoTrans2016にJR東日本と合同出展し、鉄道のハイブリッド技術と車両を中心に世界に強くアピールしました。

前号でご紹介した初の海外版“sustina”である「タイ、バンコクのパープルライン」は2016年8月6日に営業開始し、全21編成63両が順調に稼働しております。

今後とも国内外顧客の皆様のご期待に応えられる技術と車両を提供できるよう努力してまいります。関係各位皆様のご支援ご鞭撻を宜しくお願い致します。

取締役 生産本部技術部長

新井 静 男